

磁硫鉄鉱

Pyrrhotite

磁硫鉄鉱は一般の硫化鉄鉱(黄鉄鉱・白鉄鉱)に比べて、硫黄分が少いために硫酸原料としての利用度が低く、又鉄分は硫化鉄鉱よりは多いがそのままでは鉄鉱石になる程高くもなく、その上製鉄上の有害成分を含むから不適當である。特に銅あるいはニッケルを相当量含む磁硫鉄鉱は、もちろん銅鉱又はニッケル鉱として立派な役に立つが、普通の磁硫鉄鉱は、いわば中途半端な鉄鉱石として活用されず、わずかに紅柄・緑礬の製造に少量が使われていた程度である。

☆☆☆☆☆
 ☆終戦☆
 ☆☆☆☆☆
 後食糧増産にせまられ、化学肥料の原料として硫酸の増産、即ち硫化鉄鉱の増産が推進されたが、磁硫鉄鉱も低品位ながら若干その仲間入りをして今日に至つた。

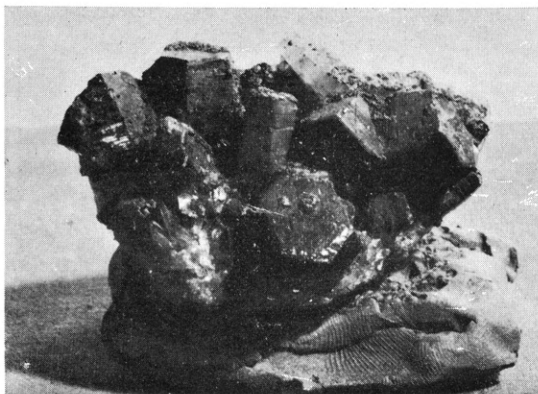
しかるに近來未利用資源の積極的な活用が日本經濟の難局打開の一環として、国策的にクローズアップされてくると共に、磁硫鉄鉱の有効処理の問題が浮び上つてきた。

磁硫鉄鉱を硫酸工場で焙焼して硫黄分を回収した場合、その焼鉱は鉄分60~68%のすこぶる高品位な鉄鉱(但し粉鉱)である。(硫化鉄鉱を焼いた場合は鉄分50~60%)

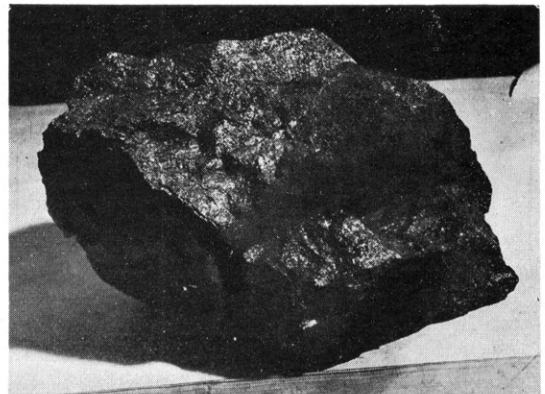
しかしながらこの焼鉱の中にはなお銅、その他の不純物が残つているので製鉄所からは歓迎され

なかつた。これらをきれいに分離することができれば、有害物や不純物を含みぬ立派な鉄鉱石が生まれ、更に銅などの副産物も得られるわけであつて、現下外資を最も多くくろ輸入鉄鉱石をこれとかなり抑制できるはずであり、また是非そうあらねばならぬ情勢にある。

この切実な問題を解決するため、磁硫鉄鉱の新しい製錬法として**流動層焙焼炉**(フルオソリット炉およびBSAF式旋風焙焼炉)法が最近わが国に導入され、既に岡山と敦賀の工場で試験的に毎月5,6千tの磁硫鉄鉱が処理されて好成績をあげている。この外にも新処理工場の計画があつて、今後の処理量は急激に増加する態勢にある。このように製鉄原料としての磁硫鉄鉱の役割は急速に増大しよ



磁硫鉄鉱の結晶



磁硫鉄鉱

